

季刊

医大

おらんくの大学病院

[高知大学医学部附属病院]

[Vol.13]

2022年 **春** 3月20日

発行

特集

Long Interview



緻密な設計と高精度な機能性を備えた施設が誕生！
大学病院に「外来マルチスペース」新設で、
大きく変わる感染症対策！



腫瘍内科とは
腫瘍内科学講座 教授 佐竹 悠良

●おらんくの食事

栄養管理部から「春」のおすすめ料理

●医大のスタッフ

手術部 春のイベント案内

緻密な設計と高精度な機能性を備えた施設が誕生!

大学病院に「外来マルチスペース」新設で、大きく変わる感染症対策!

高知大学医学部附属病院では、新型コロナウイルス感染症および感染症の疑いがある方への診療拠点として、さらに地震災害時のトリアージスペースとして、国からの補助金による外来マルチスペースを正面玄関横に新設し、現在その運用が始まっている。今回は施設建設までの流れや、その機能、役割等について、院内の関係者に話を聞いた。



2021(令和3)年12月に新設された、外来マルチスペース



医事課
小林 保数
医事課長

年12月に完成したばかりです。現在は主に、新型コロナウイルス感染症対策の拠点施設として、各診療科外来での感染を未然に防ぐための発熱者用対応や安心して入院療養をしていただく入院前の検査対応を目的として利用しています。もちろん災害対応を最優先できるトリアージ設計になっていますから、地域のさまざまな状況に対し迅速かつ適確な対応ができる構造を備えています。

外来マルチスペースが新設されるに至った経緯を教えてください。

小林医事課長 ▶ はい。この施設は2020(令和2)年度の第3次補正予算案において「国立大学附属病院における多用途型トリアージスペース整備事業予算」として申請したもので、国からの補助金により昨

こちらの施設の重要性がよく分かりました。ところで、現在の運用状況はいかがですか。

上地看護師長 ▶ これまでは発熱患者さんに対して外来フロアの一部を使い対応していましたが、それを新設の外来マルチスペースに移しました。一般の外来患者さん



も安心して来院、診察が受けられるようになりました。

また、入院前の検査対応として昨年の新型コロナウイルス感染症の第5波の際は、屋外テントで遺伝子検査の検体採取を行っていましたが、現在では外来マルチスペースの西側で対応可能となったため、室内で検体採取が行えます。



看護部
上地 美香
外来看護師長

動線を完全に切り離しているのですね。

山岸感染管理部長 ▶ そうです。発熱している方が直接外来に入ることはなく、一般の



感染管理
山岸 由佳
部長

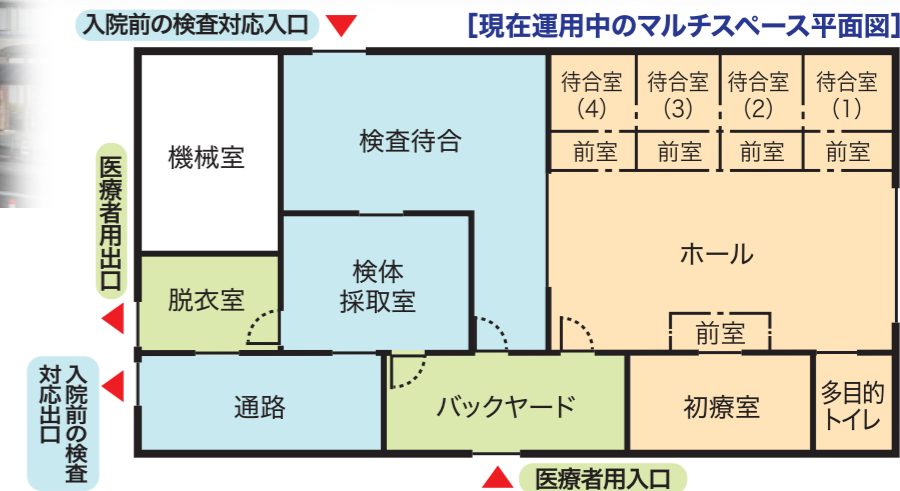
外来患者さんとは動線が独立されていますし、マルチスペースは自動ドアから入室すると個別の独立ブースになっているため、外に広がる心配もないのです。

また、入院前の検査対応では出入口を完全に分割しているため、入院前の検査対応時に医療者と患者さんがすれ違わない工夫がされています。

施設内部も画期的な設計、工夫がなされているそうですね。

山岸感染管理部長 ▶ 内部は陰圧で感染源を外に拡散しない構造になっているため、室内の空気が外に漏れることはありません。また、診察や検査、処方など診療における感染対策設備を完備していますので、感染症の患者さんは当日院内で精算する必要はなく、後日の会計という体制を整えています。

施設内は十分なスペースを確保しているため、効率良く検体採取が行えますし、常にエアコンによる室温管理も行われています。



地震災害が懸念されている昨今、被災時のトリアージという点からも説明をお願いします。

西山救急部長 ▶ もととは「附属病院多用途型トリアージスペース整備事業」という名目で申請したものです。新型コロナウイルス感染症などの感染拡大期はもちろん地震災害時などのトリアージ棟として、また災害がない通常時には、学生や医療者の研修施設としても大いに活躍してくれることとなります。

施設の使命として、災害時には多数の傷病者に対応する必要があり、トリアージ(緊急性が高いか低いか)による選別が必要です。過去の訓練では病院外来入口に

架かるひさしの下で行っていたトリアージが、このマルチスペースで対応できるようになりましたし、内部の壁を取り外すことも可能で、相当の広さを確保しています。

免震ではありませんが、地下深くまでの杭工事が行われていますので耐震にも優れ、雨風の影響を受けずにトリアージが行えることから、治療が必要な場合は病院内にそのまま搬送できる拠点となります。

今、このタイミングで運用がスタートしたことは、非常にうれしいことですね。

感染症だけでなく、あらゆる目的に適用できる万能施設となりそうですね。

小林医事課長 ▶ 本院としては、そこを目指しています。新型コロナウイルス感染症が終息しましたら、他にも多くの目的で使用されることでしょうか。そのほかの感染症の蔓延や、さまざまな災害が起きないことを願いつつ、この施設が患者さんの休息スペースとして、また、院内のイベントスペースとして、さらに地域の皆さんに貢献できる“なくてはならない”スペースとなることを願っています。

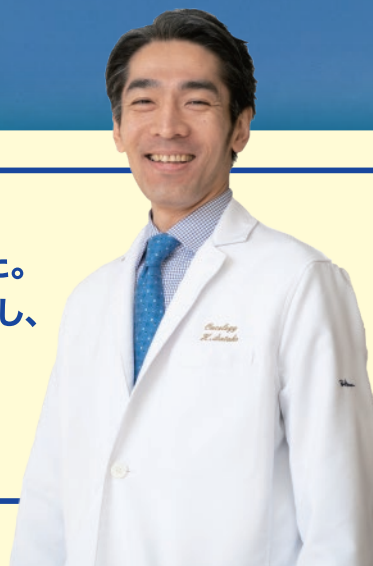
(取材/2022.2)



外来マルチスペース前にて

腫瘍内科とは

2021(令和3)年11月に高知大学医学部に腫瘍内科学講座(附属病院腫瘍内科)が設置されました。がんに対するさまざまな治療法・診断法を総合的に活用し、適切なタイミングで最良の選択を行い、各専門科と連携を図る、いわばがん治療における“舵取り役”としての診療科の誕生です。



腫瘍内科学講座 教授 佐竹 悠良
さたけ ひろなが

高 齢化の影響もあり、今や日本人の2人に1人はがんに罹ってしまう時代と言われてい
ます。がん患者さんを特定の臓器に偏ることなく全身的に診ることができ、かつがんに対する“4大治療”である‘手術’、‘放射線’、‘薬物療法’、‘緩和治療’に精通し、総合的にがん診療に臨むことができる医師及び診療科が腫瘍内科です。

がん治療における薬物療法は大きく3つの場面で使われます。

1つ目は、手術前です。がんを小さくし、手術を安全に行い、がんを残さずに取り除くのが目的です。

2つ目は、手術後です。術後、まだ残っているかもしれない微量ながん細胞を抑え、再発を防ぐのが目的です。

3つ目は、手術が難しい場合です。手術でがんを取り除くのが困難なとき、或いは、がんが再発したときです。

薬 物療法では従来、「殺細胞性抗がん剤」というタイプの薬物が使われていましたが、がんをピンポイントで攻撃する「分子標的薬」や、免疫細胞を元気にしてがん細胞に作用する「免疫チェックポイント阻害薬」が活用されるようになり

ました。これら新規薬剤の作用機序は様々で、従来の殺細胞性抗がん剤とは異なった副作用への対応が必要となりました。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の副作用は、全臓器に及び多様かつ複雑になっています。従って、薬物治療担当医は全ての臓器にわたる副作用について精通する必要があります。

ま た、がんは遺伝子の変化が積み重なり、発生してくる病気です。最近では、分子レベル、遺伝子レベルの研究が進み、がんのタイプによって、どの薬物療法が患者さん一人一人に対して効果が期待できるか、事前にわかるようになり、個々の患者さんにあわせたオーダーメイドの治療も実践されています。

地 域の先生方と協力し、高知県のがん患者さんに対して、新規治療法・治療薬を含め安心・安全にがん医療を提供できるよう尽力する次第です。今後ともご指導・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

がんに対する薬物療法の種類

■従来の抗がん剤(殺細胞性抗がん剤)

■分子標的薬

- がん細胞に特徴的な構造をターゲットにし、狙い撃ちする

■免疫チェックポイント阻害薬

- 体内の免疫細胞が元気になり、がん細胞を抑える

栄養管理部から

春

のおすすめ料理

グラスの中でお花見気分!

桜ムース

春の風景をお菓子に!

桜咲く抹茶ようかん

おうち時間を上手に使って
春スイーツにチャレンジ!

栄養量(1人分)	
エネルギー	275kcal
たんぱく質	7.4g
脂質	17.4g
炭水化物	21.3g
食塩相当量	0.2g

栄養量(1人分)	
エネルギー	98kcal
たんぱく質	4.1g
脂質	0.4g
炭水化物	20.0g
食塩相当量	0.2g

桜ムース

【材料】(4人前)

- | | | | |
|--------------|----------------------------|--------------|----------------------------|
| ◆ ムース | 牛乳……………200ml | ◆ ゼリー | 桜の塩漬け……………適量 |
| | 桜あん……………100g | | お湯……………200ml |
| | 生クリーム……………100ml | | 粉ゼラチン ^③ ……………3g |
| | クリームチーズ……………50g | | 砂糖……………大さじ2 |
| | 粉ゼラチン ^① ……………5g | | 桜リキュール……………大さじ2 |

【作り方】

- 準備: 桜の塩漬けは塩抜きしておきます。
クリームチーズは常温で柔らかくしておきます。
- ① ムースを作ります。鍋に牛乳、桜あんを入れて中火にかけます。沸騰しないように混ぜ、桜あんが溶けたら火を止めて粉ゼラチン^①を入れて混ぜます。
 - ② 生クリームを6分くらい泡立て、クリームチーズを入れてよく混ぜます。
 - ③ ②に①を入れて混ぜます。容器に入れて冷蔵庫で固まるまで2時間ほど冷やします。
 - ④ ゼリーを作ります。お湯に粉ゼラチン^③、砂糖、桜リキュールを入れてよく混ぜ、③とは別の容器に入れ固まるまで冷やします。
 - ⑤ ④が固まったらフォークで混ぜてクラッシュ状にします。固まった③の上に乗せ、桜の塩漬けを飾って完成です。

桜咲く抹茶ようかん

【材料】(1型分/12cm×7cm×4.5cm ※約3人前)

- | | | | |
|-----------------|---------------------------|---------------|---------------------------|
| ◆ 抹茶ようかん | 白あん……………100g | ◆ 桜ゼリー | 水……………100ml |
| | 抹茶パウダー……………2g | | アガー……………7g |
| | 水……………100ml | | 砂糖 ^② ……………大さじ1 |
| | 砂糖 ^① ……………大さじ1 | | 桜の塩漬け……………適量 |
| | 粉寒天……………2g | | |

【作り方】

- 準備: 桜の塩漬けは塩抜きしておきます。
型は水で濡らしておきます。
- ① 抹茶ようかんを作ります。ボウルに白あん、抹茶パウダーを入れゴムベラで混ぜ合わせます。
 - ② 鍋に水、砂糖^①、粉寒天を入れ混ぜながら中火にかけ沸騰させ、沸騰状態を2分保ち弱火にします。
 - ③ ①を加え混ぜ合わせ、全体がなじんだら再び中火にし5分ほど混ぜながら煮詰め、型に流し入れ、粗熱を取り、冷蔵庫で30分冷やします。
 - ④ 桜ゼリーを作ります。鍋にアガー、砂糖^②を入れ混ぜ合わせ水を加えて混ぜながら中火にかけ沸騰させます。沸騰状態を1分保ち火から下ろし、冷水につけて粗熱を取ります。
 - ⑤ ③の表面に爪楊枝で細かく線を入れ、桜の塩漬けと④を入れて冷蔵庫で60分ほど固まるまで冷やします。
 - ⑥ お好みの大きさに切り、皿に盛り付けます。

私達が担当しました!

一言MEMO

春色の2色のようかん&ムースを作りました。ゼリーを冷やし固める凝固剤にゼラチンとアガーを使用。アガーの透明度が高く美しい光沢が出る特徴を活かし、春らしく桜を咲かせました。(アガーとは海藻由来やマメ科種子由来の多糖類からできています。原材料はいずれも自然由来のもので安心して使える凝固剤です。)
桜ゼリーは抹茶ようかんの上に置くため硬めに。抹茶ようかんの表面に爪楊枝で細かく線を入れ、ゼリーとようかんのずれを防ぎます。



調理師 松本 大輝
まつもと たいき



管理栄養士 西内 智子
にしうち ともこ

手術部

Department of Operating Room Management

部長
上羽 哲也
うえは てつや



副部長
北川 博之
きたがわ ひろゆき



手術部にはMRIや放射線撮影が可能なハイブリッド手術室を含む12室があり、毎日、予定手術の他、緊急、準緊急手術を行っています。

手術件数はここ数年増加傾向にあり、

令和2年度にはCOVID-19対応を行いながらも5700件を超える手術を行いました。

令和3年度は毎月500件前後で推移しており、件数はさらに増加する見込みです。

データ活用と診療科間のコミュニケーションで、無駄のない手術室運用

手術部では、勤務時間内の手術終了にも取り組んでいます。昨年度と比較して、時間外の手術時間は30%以上短縮できています。これを可能にしたのは、徹底したデータ調査と、毎月の手術部会議での各診療科に対するフィードバックです。予定手術時間を大幅に超過した手術はタイムテーブルの振り返りを行い、同一術式の平均的な手術時間と手術室利用時間を計算し、各診療科の担当者にフィードバックすることで、正確な手術室利用につなげています。そして空室状況を早急にアナウンスすることで、準緊急や待期的手術に利用してもらい、時間外の緊急手術に即応できる体制を整えています。

積極的なロボット支援下手術を支えるチームの力

当院では手術支援ロボットDa Vinci Xiを消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科が使用しています。ロボット支援下手術は3次元高解像度のカメラによる精密な画像と、

最新型手術支援ロボット ダビンチ Xi



ハイブリッド手術室

手ぶれの少ない先端可動域のあるアームによる鏡視下手術が強みですが、精密な機械のため運用には高度の技術を要します。当院の臨床工学技士は高い技術と幅広い知識を有しており、ロボットの運用以外にも、人工心肺装置や人工臓器、ペースメーカーの管理なども行っています。

患者さんにも職員にも安心な感染管理を目指して

感染管理部の指導のもとで患者発生時のマニュアルやシミュレーション、手術室の清掃消毒手段の検討を行っています。当院でも多くのCOVID-19患者を受け入れてきましたが、これまで手術予定を大きく崩すことなく運用ができています。第5波の際は手術室スタッフにも感染者が発生しましたが、手術室に出入りする全職員と関係者に対して早急にスクリーニング検査を行うことで、封じ込めに成功しました。

今後も高知県民にとって重要な高次医療施設としての役割を果たすため、質の高い手術室運用を行って参ります。

春のイベント案内

●3月～6月●

RKCラジオ 「気になる健康 ファミリドクター」

【放送予定日】
毎週月曜日 午前10:35～(8分間)

※放送内容は後日附属病院ホームページに掲載されます。



- 22年3月21日(月) 緩和ケア [緩和医療科/北岡 智子]
- 22年3月28日(月) がんゲム診療 [腫瘍内科/佐竹 悠良]
- 22年4月4日(月) 加齢による物忘れと病的な物忘れ [脳神経内科/古谷 博和]
- 22年4月11日(月) 新型コロナウイルスの流行による子どもの生活環境の変化 [小児科/石原 正行]
- 22年4月18日(月) がん患者のこころのケア [緩和医療科/掛田 恭子]
- 22年4月25日(月) 高知に多い日光性の皮膚がん [皮膚科/木戸 一成]
- 22年5月2日(月) 甲状腺がんの放射線性ヨード内用治療 [放射線診断科/宮武 加苗]
- 22年5月9日(月) 癌治療のアビアランス・ケア [乳腺センター/藤原 キミ]
- 22年5月16日(月) ヘルニアについて [外科/山口 祥]
- 22年5月23日(月) 遺伝性卵巣がんの検査と予防手術 [産科婦人科/泉谷 知明]
- 22年5月30日(月) 膝の痛みの原因 [整形外科/杉村 夏樹]
- 22年6月6日(月) 緑内障手術 [眼科/三浦 悠作]
- 22年6月13日(月) 高齢者の誤嚥性肺炎の予防 [耳鼻咽喉科・頭頸部外科/長尾 明日香]
- 22年6月20日(月) 脳腫瘍に対する光線力学診断と治療 [脳神経外科/川西 裕]

